**ヨハネによる福音書9章**

**【生まれつきの盲人をいやす】（1～12節）**

Q1.「神の業がこの人に現れるため」とは？

 補足：当時は肉体的な病気は本人や親族が生前、及び生後起こした罪の報いであるとされていた。

吉：神の業はこの場合？

岡：目の治療。

吉：この言葉を言うことでイエスは何を言おうとしたのか。

岡：病気は治すためにあるんだぜ。みたいな。

彼に罪はあっても、その罪は自分が贖う。

♀：ちょうどワインが切れたところにイエスがいたように、イエスがここで奇跡を行うために彼は盲人だった。神のおおきな　計画の一つ。

水：こうした原因探しは今日でも行われること。人は不幸にたいして「何が悪いからこうなった」ということを特定したがる。そういう風にして安心感をえる。

それに対してイエスの答えは、そういう因果応報の思想とは全くレベルが違う世界。

そうした原因結果論はあてはまることもあるが、全くあてはまらないこともある。そういう食い違いが起こっているところに神の恵み、神の業がある。

これを受けとれると物事に対してポジティブに生きられる。

神の業の超然性を理解し、人間の常識を超えたことが起こることを受け止める。

岡：「夏学期に勉強しなかったら単位が来なかった」から「冬学期はもしかして勉強しなくても単位がくるかも」とか思い出すとダメですよね。

水：当たり前ですね。

岡：「勉強したから神様が見ていてくれて単位が来た」というのもあると思いますが。

水：それは因果応報的な考え方ですね、

氏：就活なんかは特に、自分に全ての原因があると思わずにいくことが大事。

宮城さんなんかは全然不安そうじゃなかった。それはこのことを知っていて安心感があったのでは。

吉：因果関係を考えることも大事だが、それを超えたものがあることも理解すること、そして単位はしっかりとるのが大事ということですね。

Q2.では、この人もこの人の両親も罪がないのであれば、どうしてこの人は目が見えない苦しみを受けなければいけなかったのか？つまり、最初から目が見える状態で生まれてきたならば目が見えない苦しみを味わうことが無いのだが、わざわざ神がこの人を目が見えない状態で生まれさせたのはなぜだろうか？

ｈ：巡りあわせなんじゃないですかね。なんにでも理由があるわけではないよね、的な。

宮：さっきの問いの結論にもありましたが、努力してもどうしようもないことがその人にあらわれることもあるよね。この人の場合は盲目だったけど、他の人もそういう生まれつきの何か性質を持ってたりするもんなんじゃないですかね。盲目は飛び抜けて深刻なように見えるけど程度の違いなのでは。

吉：客観的に誰でも分かる盲目は着目されがちだが、実際はみんなそうした生まれつきの苦しみを抱えて生きているのでは、ってことですね。

氏：全く同じ人は一人もいませんしね。

吉：そうしたことも一種のめぐり合わせなんだから、自分の不遇な点を受け入れて生きることが大事ってことですかね。

宮：ただ、なにかハンデがあるからといって不遇と決め付けるのはダメかも。この人だって、盲目だからイエスに救ってもらえたわけだし。

氏：盲目はとっても大きいハンデだから＋にとらえるっていうのは中々難しいけれど、今回で言えば救っていただいたことは少なくとも良かったのでは。

水：25節でこの人自身が言っている「私は盲目であったのに、今は見える」は、この人にとて大きな変化をあらわす言葉。見ることのできない不自由さとか痛みを知っているかれが、「今は、見える」。こういう苦しいところを通ったから今の喜びはおおきい。そういうところはあるんじゃないですかね。

吉：不自由、不遇があったからこそ大きな喜びを得れるっていうことですかね。

水：苦しみの中からの光を見出すのがどれほど喜ばしいことなのか、というのを教えてください。

吉：そういう経験、柔道部の福島君はありますか？

福：全然おもいつかないんでパスで。吉永さんに。

吉：ああ次行きます。

Q3.「まだ日のあるうちに」「誰も働くことのできない夜」とは？

吉：この「日」とはなんなのか。「夜」とはなんなのか。

♪：人間のように光と熱がみちみちている感じがパラダイスみたいなこう生きながらにしてパラダイスにいるみたいな（謎）それなりの不幸があっても、ハッピーエンドが営めるような人生が、イエスがいる間は保証されますよみたいな。

吉：よく分からないけど素晴らしいですね。（棒）

♪：新宿の東口を出たところみたいな

岡：あそこはカオスだよね。

♪：ここの「夜」は、カオスはカオスでも悪いカオスみたいな。

吉：じゃあ一歩踏み込んで「働く」とはなんでしょう。

ｈ：ESもこの質問あったわ

吉：じゃあ荒浜さん。

ｈ：俺そのES出さなかったわ。

吉：じゃあ福島。

福：「日」と「夜」に関してはだいたい今まで出た感じなんですが、…ヒント下さい。

吉：イエスはどういう「はたらき」をしてきたのか考えて。

福：なんか伝導とか。

吉：これ以上いじめるのはやめます。イエスの「はたらく」っていうのは「神の意志を伝えること」。これをしなくてもいいのが「夜」では。他になにかありますか？

岡：創世記をひらいてください。神が世界を作ったときに、夕や夜はなにもはたらいていないんですね。だからそれにならって、人もなにもするな的な。

吉：人も、実生活でも夜に仕事を残すな的な感じですか？

ｈ：夜が光がない状態だとすると、世の光＝イエスだから夜はイエスがいない状態なのでは。そう考えると吉永の解釈の方が正しい気がするけど。

吉：イエスがいるうちに働いて、私がいなくなったら寝なさいみたいな。

水：岡本くんの解釈も面白いですね。人間が今の生活を作れたのは夜にも働くライフスタイルのおかげですが、本来人間は昼に働くようになっていますからね。

世界が作られて、そして裁かれるまでの間の期間こそが「今」であるということをイエス主張しているのではないですかね。そして、それに対して私たちがどうこたえるのかということを聞かれているのではないですかね。

吉：色々な意味がこの言葉には含まれているということですね。

水：そうですね。

吉：「日」というのはイエスの命がある間ですか？

水：むしろ「この世界がある間」ですね。夜とは「裁きが有ったあと」。

光はいつまでもあるのではないよっていうこと。

～閑話休題その１～

視力が良くないからといって、聖書の記述を参考にその辺の泥を目に塗って池の水で洗い流すことは推奨しません。結膜炎などの感染症にかかる可能性があります。近くの眼科医にご相談ください。

～閑話休題その２～

目が見えないのにどうやってこの人はシロアムの池に行く事ができたのか？もしかしてもともと目が見えていたのに、見えていないふりをして物乞いをしていたが、イエスにそれを見破られ、「みっともないからやめなさい」と諭され、やめるきっかけを与えられたのかも。（普通に考えると、近くの人に池まで連れて行ってもらったと考えるのが妥当。）

**【ファリサイ派の人々、事情を調べる】（13～34節）**

Q4.復習：安息日とは？

塁：仕事しちゃいけないよ、厳しいところではスポーツもしちゃいけないよみたいなアレです。

吉：その通りです。もっと厳しいところではムダ毛処理だとかスイッチを入れるのもいけないみたいなのもあります。そんな安息日にイエスは泥をこねてしまった。もちろんこの当時がそんなに厳しかったかどうかは分かりませんが。

Q5.安息日は何のためにあるのだろうか？

目：安息日のはじまり（世界の始まりの七日間）はしってるんですが、イエスの頃はそれにならってやっているだけで、意味は無かった気がします。

吉：では、安息日がなかったとしたらどういうことが起こり得るでしょうか。

さっきからあんま喋ってない福島。

福：喋ってますよ（怒）

吉：いや、福島社会学部だしね。こういうことは社会学部に聞いた方がいいかなと思って。

福：でも毎回喋ることないんだよなー。

宮：そんな良い事を毎回言わずともいいんだよ。普通に喋れば。

福：じゃあ鶴居と同じで。

吉：じゃあもうそういうことで。

岡：神に礼拝することができ、神を賛美する気持ちが薄れない役目もあるって、昔水口先生が仰ってました。（過去のレジュメを見ながら）

ｈ：神は今でも安息日におやすみになるんですか？

氏：「神はまどろむことも休むこともない」って書いてあるところもあります。

ｈ：そう考えると、七日目はすごい例外なんですね。

水：マルコの2章の27節を見てください。

これが安息日の意味を端的に表していますね。安息日はいやいや強いられてするものではなく、本当に人間のために作られたものなんです。さっき出た今日的なオーバーワーク防止やメリハリを生活につけるというのも安息日の理念にかなったことなんですね。

Q6.イエスはどうして安息日に人を癒したのだろうか？

塁**：**人のために安息日は設けられているのだから、結果的に人のためになることっはやってもいいじゃんという理論では。

吉：おれが持ってきた答えとおなじですね。他に何か意見があれば。

宮：パリサイ派の律法主義との対照性がはっきり出ているところですね。字義通りに勧めることを第一にしている彼らとイエスの違いが見える。

吉：イエスは柔軟に臨機応変に対応していきますね。パリサイ派はガチガチなんで対立がそこで起こっていきます。

岡：安息日に関して、ルカの3章6節を見てもらえれば。

イエスがここで安息日を再定義したのではと自分は思います。

吉：じゃあ続きは来週で。

水：安息日のルールを嫌々守るのではないように、いやいや行くのではなく、自分から進んでいくことで得られるものもたくさんあると思うのでぜひそういう心持ちで教会に行ってください。ミッションスクールなんかでは宿題として教会にくる人もいますが大局的にみればいいのかもですが、是非進んできてください。

**【ファリサイ派の人々の罪】（35～41節）**

Q7.39節「見えない者は見えるようになり、見える者は見えないようになる」について、「見える」ということはどういうことを言っているのだろうか？

吉：「見える」は英語ではseeである。Seeは「見える」の意味だけでなく「分かる」の意味もある。だから、岡本の言うとおり、ここは「神の存在を理解できる」という趣旨ではないだろうか。

水：イエスのしていることを悪霊の仕業だと決めつけている人たちは見えていないということなのだろう。

ヨハネの福音書3章の18節では、イエスはなんのために自分が来たか明かしている。それは救いのためであり裁きのためとは言っておらずここでの発言と矛盾している。

ではここで言っている「裁く」とはどういう意味だろうか。

♀：救うべき人を選別することを「さばく」と表現しているのではないだろうか。

塁：古橋さんの意見とほぼ同じなんですけど、光に来る人を救って闇に行く人ははいさよならという区別をすることをさばきと言っているのではないだろうか。

F：見えない人と見える人をわける。

う：見えない人が見えるようになった。見えなかった人の前でイエスは「私がそうだ」っていって見えない人はイエスが見えるようになったわけでしょう。律法学者達は逆に見えてなかった人たち。それなのに「自分は神様のことを知ってる知ってる」と言って見えるふりをしていた。

＠：ロジックが通っているなぁ。

水：「さばく」というのは元々の基本はキリストが来た意味は救うためなんだけど、人間はそれを受け入れるも拒絶するも自由。ユダヤ人やパリサイ人のように拒絶するならさばかれるんですよっていうこと。イエスがさばく権利を持っているということははっきりしている。それは脅しではなく、拒絶することにはそういう責任が伴っているんだよ、ということ。

Q8.41節「『見える』と言っているから罪は残る」とはどういうことか？

吉：じゃあさっき何かいいたそうだった岡本

岡：言いたい意志はあるんですが、言いたいことは無いです。

吉：じゃあついでに宮崎さん。…いや「ついで」じゃないです！

宮：あぁじゃあレジュメ配ります。

F：いや、まだ宮崎さんのレポーターじゃないです。

♀：ついでに配ったんですよね。当てられたから。

水：じゃあ「罪は残る」という言葉の反対はなんでしょうか。

吉：じゃあ素晴らしいまさきくん

♪：「罪」っていう言葉は入れた方が良いんですよね。

水：そうですね。

♪：「罪から解放される」

皆：おおぉ。素晴らしい。

♪：「祝福される」！！！！（ポーズつき）

吉：上級生の方々は違う意見ありますか？

F：「許される」とかはどうですか？

吉：おぉじゃあそんな賢い福島くんの意見を採用するとして水口先生どうですか。

水：まさきくんの言った「開放される」も適切だし、「許される」も適切ですね。罪が解決されているかされていないか。この文脈ではイエスに敵対しているパリサイ人に対して言っているんですが、本当は全ての人に対して言っているんですね。